



合同会社 いぶき介護センター
有料老人ホーム いぶき
デイサービス いぶき
山形県新庄市大字松本 393-9



業務執行社員・施設長
伊藤 巧



代表社員
半澤 桂子

利用者さんが健やかに
ゆとりのある日々を送れるような
「第二の家」でありたい

有料老人ホームとデイサービスの「いぶき介護センター」は、「利用者さん一人ひとりとしつかり接したい」という、半澤代表と伊藤施設長の共通の理念のもと設立された介護施設だ。確かな信念と仕事への誇りを持って邁進しているお二人に、野村将希氏がインタビュー。その熱い思いに触れた。

まずは、半澤代表の歩みからお聞かせいただけますか。

(半) この町内で生まれ育ち、中学を卒業後は、働きながら資格を取れる東京の看護専門学校へ進学しました。地元で就職するかどうかは決めていなかったのですが、看護師免許を取得してすぐに父が体調を崩したこと、帰郷することにしたんです。ちょうどこの地域に新しくできた施設に就職でき、こちらで7年半ほど勤めました。結婚と育児によって一時は仕事から離れたんですが、社会福祉協議会に勤めるなど、長年介護に携わってきました。伊藤施設長とは、訪問入浴の仕事先で知り合いました。

伊藤施設長も、こちらのご出身なのですか。

(伊) そうです。もともと農機具のメーカーに勤めていたので、全く別の業界だったんです。それが、父が体を壊して介護が必要になったことをきっかけに、介護業界に興味を持ちました。辛い働きながら資格を取らせてもらえる事業所に入れたので、

念願の夢が叶って良かったですね。こちらの施設の特長はどこですか。

(半) 利用者さんやご家族の負担にならないよう、できるだけ低価格でサービスを提供しています。この辺りの地域は農家が多いので、国民年金受給者が多いんです。周辺の個室有料老人ホームは10万円以上かかる場所がほとんどですが、それでは国民年金の方が入居するのは厳しいのではないかと。それで施設長が、「このくらいであればギリギリ運営していけるんじゃないか」という金額を算出してくれました。

本来であれば行政が対策を講じてほしいところですが、お二人は少しでも利用者さんの負担を減らしたいとの一心で尽力しておられるんですね。先ほどおっしゃっていた、お二人が考える理想の介護のあり方とはどのようなものですか。

(伊) 前に働いていた所では利用者さんに対し職員が少ないので、どうしても流れ作業のような感じだったんです。1日のスケジュール通りに動くため、なかなか利用者さんの声に耳を傾ける余裕がありません。その方がスムーズに仕事はできるのですが、私たちはそういう方針ではなく、少しくらいマニュアルからズレたとしても利用者さん1人ひとりとしつかり向き合いながら介護をしたいと考えています。

(半) 慣れ親しんだ自宅からこちらに移るのは誰しも不安でしょうから、利用者さんにはなるべく自宅にいる時のように、寛ぎながら過ごしてもらえたらと思います。職員もあまり気を張らずに自然に接して、レクリエーションの日以外でも「今日は天気が良いから出掛けようか」というように思いついたことを提案してもらっています。

そちらで介護関連の資格を取りました。

(半) その次に移った会社も同じだったので、およそ15年間ずっと一緒に働いています。色々話をしている中で、お互いが理想とする介護の方向性が似ていると感じました。私はいつか自分で介護事業ができた方がいいなとは思っていたのですが、開業資金などのこともあり、なかなか踏み切りがつかずにいました。

では、どのようなきっかけで独立に踏み切ったのでしょうか。

(半) 当時働いていた施設の方針が、私が思う介護と方向性が少し違うなと感じ、辞めることにしました。同じ施設で働いていた施設長も辞めるということで、これからどうしようかと思索し、自分たちで開業することに決めました。施設長がしっかりとした事業計画書を作成してくれたお陰でスムーズに手続きができましたし、施設を建てる際もまたま知り合いに土地を売ってもらえることになり、事業立ち上げの話が出てから開業するまで急展開でしたね。

(伊) 「今日は暑いからかき水をしようか」ということもありますね。できる範囲で、利用者さんの希望などにも応えていこうと思っています。

全部スケジュール通りに生活するのは息苦しいですし、その日の気分もありますからね。やり甲斐も大きいでしょう。

(半) 利用者さんがニコッと笑ってくれた時は、やはり嬉しいですね。こちらで看取らせていただいた方もいて、ご家族の方から「ありがとう」「もし家で亡くなっていたら、こんなに安らかな顔にはならなかっただろう」という言葉を聞いた時は胸が熱くなり、この仕事をして良かったなと感じました。また、「別の方にも紹介しておくからね」と言っていただけでも紹介しておくからね」と言っていただけでも嬉んでいただけですね。お話を聞きませんが、これからの夢や目標を教えてください。

(半) ニーズの多い介護業界でも、やはり経営は大変だというのは承知しているのですが、まずはこの会社をこのまま安定して続けられたらと考えています。当所はケアマネジャーさんからの紹介もあり、要介護度の高い方や認知症の方も多くいらっしゃいます。色んな利用者さんと職員、皆で仲良くやっていきたいと思います。

(伊) 縁あってここで出会えた利用者さんたちに、元気で長生きしてもらえることが一番ですね。また、地域の介護施設は不足しており、当所も多数の問い合わせをいただいています。部屋が空くのを待っている方もいらっしゃるの、もう少し早く順調にいけば、新しい施設の開業にも取り組んでいきたいですね。



野村 将希
(タレント)

● ゲストインタビューアー

「自分の家にいるような感覚で、ゆったりと寛ぎながら過ごせるような施設にしたいと話して下さったお二人。アットホームな雰囲気ですから、入所したいという方が多くいらっしゃるという方も聞きます。介護業界は深刻な人手不足に陥っており、人材の確保は課題となっているようですが、ぜひ新しい施設の開業も実現していただきたいですね。私も陰ながら応援させていただきます！」

>>> CHECK マニュアルからは生まれない、のびのびとした雰囲気

▼深刻な人材不足という課題を抱える介護業界。職員が足りていない事業所では、職員は日々多くの業務に追われている。「多くの事業所では一日のスケジュール通りに動かなくてはならず、淡々とお風呂に入れて、おむつを交換して……というように、利用者さんへのサービスが流れ作業のようになってしまう」と語る伊藤施設長。特に大きな施設では、管理されたマニュアルから少しでも外れることはできないという。より利用者さん一人ひとりの気持ちを配慮したサービスを提供するためにも、自分たちでやろうと思ったことが、『いぶき介護センター』設立の原点だ。

▼同社が運営する有料老人ホームやデイサービスでは、レクリエーション以外でも、利用者さんの要望などに合わせて何かを作ったり出掛けたりすることがある。もちろん基本的な規律はあるが、マニュアルに縛られすぎず、柔軟に対応していきたいと考えているのだ。そんな環境だからこそ、利用者さんも職員も生き生きとした表情なのだろう。